2007年 日本建築学会 教育賞 受賞理由

大工と庭師の専門学校
職藝学院
Toyama International College of Crafts & Arts

職と藝を結ぶ教育をめざして

学校法人 富山国際職藝学園 理事長
正会員 稲 葉 實 君

富山県南部の山裾に広がる「職藝学院」は、従来の建築築育の殻を大きく打ち破る学校として、10 年前の開校時から全国的に注目された学校の一つである。バブル期の頃、深刻な技能者の育成難や建築教育の行き詰まりを背景として、各地で多様な「ものづくり学校」構想が打ち上げられたが、この学校はその中でも開校以来抜きん出てめざましい成果を上げ、新たな「ものづくり教育」の地平を果敢に開拓し実践している。

稲葉實君は、同学院の理事長として、構想や開校準備の段階から今日の運営に至るまで、多様な支援関係者の先頭に立って様々な困難を乗り越え、多大な貢献を果たしてきた。

同君らが実践中の総合的教育プログラムは、以下のような点が非常に高く評価された。

第一に、伝統的な匠技を意味する「職」と、職人の心や新たな感覚を意味する「藝」を結びつけた「職藝人」の育成という独自理念の着実な実践がある。既成枠に縛られない自由な「専門学校」制度を活用し、「環境と建築の融合」「実習中心」「地域に根ざす」「伝統技能」という 4 つの指針のもと、マナーや古式を含む独自の教育プログラムを開拓している。志願者は広く全国から集い、卒業生は地元や全国各地へと活躍の輪を広げている。

第二に、在学中に「実際建物を建設する」という文字通りの実践教育を中心に据えている点にある。1 年次、主に校内での基礎実習のあと、2 年次は各コース（建築は大工 3 コース、環境は庭師 2 コース）に分かれ、外に出て「実物実習」と称する実際の建物作りや庭作りに挑戦している。地域から提供される実際のプロジェクトを「実物教材」と位置づけ、住宅・古民家・ギャラリー・寺社・茶室・土蔵など多様な建物を対象に、新築から解体・移築・文化財修復・町作りに至るまで、累計 120 件余り（年 10 件前後）ものプロジェクトを実践している。具体的なプロジェクトへの緊張感、先人の知恵や技への触れあい、完成時の達成感など、学生への有形無形の教育効果を上げている。

第三に、これらを通しての地域社会への貢献がある。解体の危機に瀕する古民家や修復手だてのない建物、町並み整備など、地域からの多様な相談事に応えながら、伝統文化への関心、後継者の育成、関係者の活躍の場やネットワーク化など、地域に積極的役割を果たしている。この仕組みは、棟梁やプロ専門家参加による実践的で強力な指導体制、地元関係者や企業等の幅広い協力など、多くの関係者の熱意に支えられたものである。

第四に、これらの試みを通し、全国規模で深刻化する次世代技能者の育成難、硬直化した建築教育の打破、地域や産業との積極的連携など、過渡期にある建築教育機関が切り開くべき新たな地平の開拓への貢献という点がある。

よって、ここに日本建築学会教育賞（教育貢献）を贈るものである。